

「大学入試改革」

ここまでのふり返りと若干の提言

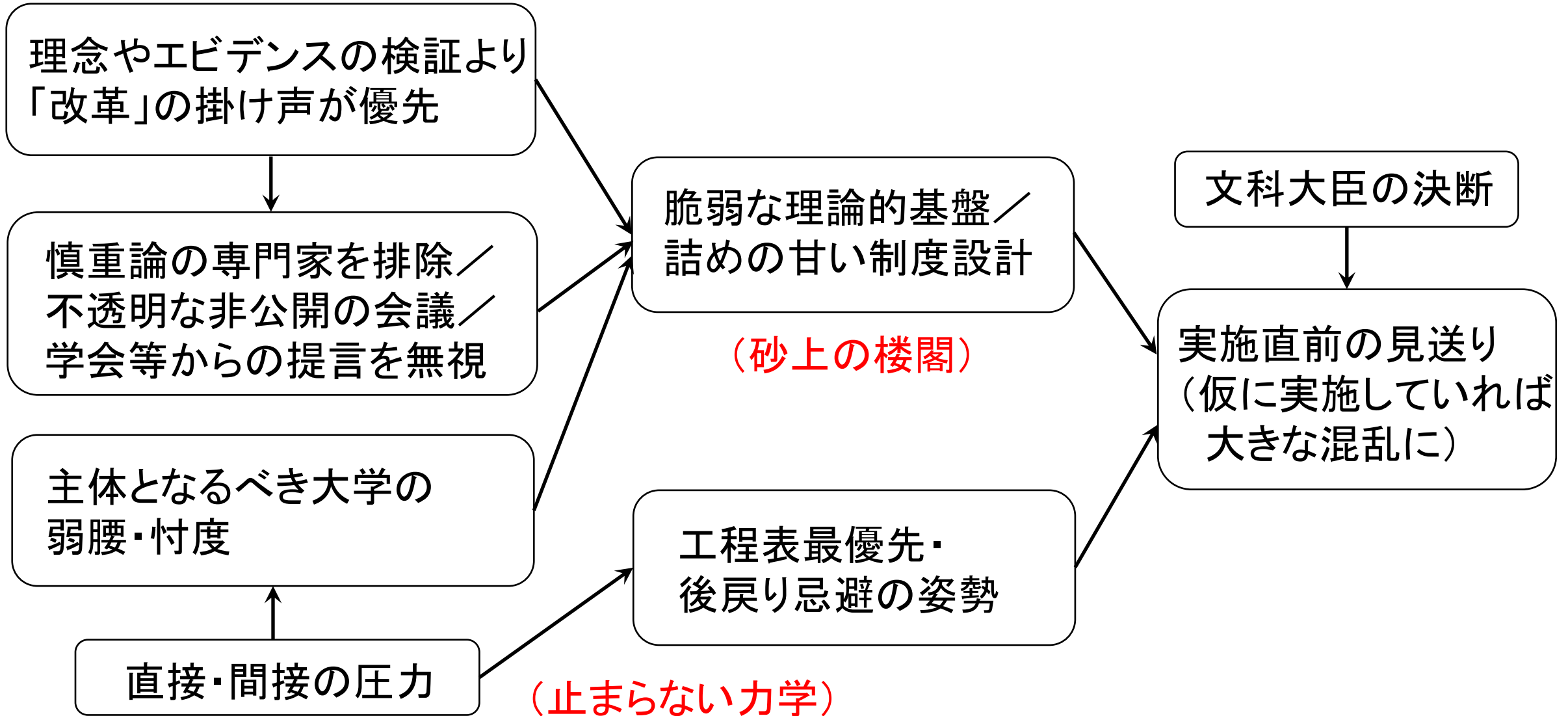
南風原朝和

東京大学名誉教授

元・文部科学省高大接続システム改革会議委員

元・大学入試センター運営審議会委員

「大学入試改革」の顛末



理念やエビデンスの検証より 「改革」の掛け声が優先

十分に検証されなかった事項の例

- 「思考力・判断力」は、どう定義されるのか／共通テストの主眼とするには曖昧すぎないか（⇒巻末リストの29など参照）
- 50万人規模の記述式問題の採点は、どのようにすれば妥当性と信頼性を確保することができるのか／そもそも可能なのか（⇒巻末リストの22, 24など参照）
- 「英語4技能をバランス良く」とは具体的にどういう意味か／4技能は日本の大学で学ぶうえで均等に必要なのか（⇒巻末リストの13, 15, 20, 25など参照）

慎重論の専門家を排除／不透明な非公開の会議／学会等からの提言を無視

■ 慎重論の専門家が会議から外された例

「英語のあり方に関する有識者会議」(吉田研作座長, 11名)

↓ 外部試験の導入に慎重な立場の大津由紀雄委員, 外れる

「英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する小委員会」
(吉田研作主査, 6名＝松本茂氏, 三木谷浩史氏, 安河内哲也氏ら)

■ 学会からの提言の例

日本語テスト学会

「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)における英語テストの扱いに対する提言」(2017年1月4日)

(前回会議の渡部良典委員の提出資料参照)

主体となるべき大学の弱腰・忖度

■その例としての東京大学の動き

ー以下の2つの発表の間に何があったのか（⇒巻末リストの21, 30など参照）

2018年3月10日：

「東京大学として、現時点で業者テストを入学の試験として用いることはあまり正しくないだろうと、ちょっと拙速だろうと考えています」

https://news.tv-asahi.co.jp/news_society/articles/000122649.html



2018年4月27日：

「国立大学協会のガイドラインに従い、英語認定試験の平成32年度以降の大学入学共通テストにおける具体的な活用方策について検討することとしました」

https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/admissions/undergraduate/e01_admission_method_01.html

4年前に記述式の導入を止められなかったときの攻防(?) :

高大接続システム改革会議第14回(最終回, 2016年3月25日)議事録より

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/064/gijiroku/1371775.htm

【南風原委員】(中略)記述式を入れるということによって、様々な期待というか想定されるメリットというのが挙げられています。(中略)ここでの乖離というのは、そういう期待, ないしは想定されるメリットと現実に行おうとしていることとの乖離です。現実に行おうとしていることというのは、単文の記述式である, それから条件付きの記述式である, そして, 採点はその条件に適合しているかどうかをチェックするというものであると。(中略)条件が合っていれば正解とするという, 短い記述式でこういったことが実現できるかということ, これはかなり離れてることだと思っんですよね。(後略)

<↑約2000文字分の発言>

【安西座長】ありがとうございました。ほかにはいかがでしょうか。

※この日で高大接続システム改革会議は終了し, その後継の「検討・準備グループ」(非公開)で記述式導入の方針が進められ, 2019年12月に一転, 見送りとなる。

共通テスト英語の発音・アクセント問題、語句整序問題を廃止することの「決定」経緯（1/4）

平成29年度英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会（第1回，2017（平成29）年9月7日）議事録より

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/134/gijiroku/1397076.htm

【安河内委員】さらに現在の大学入試センター試験には間接測定という領域、いわゆる1番から3番までのスピーキング・ライティングを間接的に測定しようとする整序問題、文法問題、発音問題があります。これが、よく問題になるように悪いウォッシュバックを起こしている。これをそのまま2020年度以降も残してしまうのか。

【大杉審議役】入試センターで作問担当の大杉と申します。（中略）本年度2月に英語のプレテストを実施させていただき予定ですけれども、ここで今も作問の先生方、**安河内委員**が御指摘いただいた内容を踏まえて作問の改善を議論しておりますので、2月のプレテストにおいて全国の高校でその具体的なものを実施させていただく。

共通テスト英語の発音・アクセント問題、語句整序問題を廃止することの「決定」経緯（2/4）

平成30年2月実施の試行調査報告 **有識者からいただいたコメント**

<https://www.dnc.ac.jp/news/20180314-01.html>

◆吉田研作氏（上智大学特別招聘教授）

今回の英語の問題は、今までのものと違い、**スピーキングやライティングの間接的に問う問題（発音、アクセント、語句整序など）は含まれておらず、リーディングは純粋に読解力を、またリスニングは純粋に聴解力をはかるものになっている点が非常に良い。**

◆松本茂氏（立教大学グローバル教育センター長）

受験生は**共通テストと民間の英語四技能試験の両方を受けることを踏まえ、共通テストでは「聞く力」「読む力」の二技能に焦点を当てることになったことが大きな特徴の一つである。**これにより、**これまで出題されていた「話す力」「書く力」を間接的に測っていたとされた問題（発音、アクセント、語句整序など）を排除できたことを評価したい。**これらの問題は、いわゆる「受験英語」の指導を助長していたという根強い批判が以前からあった。

共通テスト英語の発音・アクセント問題，語句整序問題を廃止することの「決定」経緯（3/4）

大学入学共通テスト企画委員会（第7回，2019年11月11日～13日）議事概要（書面審議）

<https://www.dnc.ac.jp/albums/abm.php?f=abm00038027.pdf&n=%E4%BC%81%E7%94%BB%E5%A7%94%E5%93%A1%E4%BC%9A%EF%BC%88%E7%AC%AC%EF%BC%97%E5%9B%9E%EF%BC%89%E8%AD%B0%E4%BA%8B%E6%A6%82%E8%A6%81.pdf>

令和元年11月1日に文部科学大臣から，令和3年度大学入学者選抜から導入予定であった英語民間試験活用のための「大学入試英語成績提供システム」の導入を見送るとの発表があり，これを受け，令和3年度大学入学者選抜から導入する大学入学共通テストにおける英語の出題方法等について，本年6月7日に公表した「令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法等及び大学入学共通テスト問題作成方針」の英語の出題内容については，次の①・②により変更しないこととする案を作成した。

- ① 英語の発音，アクセント，語句整序等を単独で問う問題を出題しないことについては，これらの問題がこれまで英語教育の観点から課題として指摘されていたことを踏まえたものであること
- ② 今回，リーディングとリスニングの配点を100点ずつ均等にした趣旨は，高等学校学習指導要領が4技能のバランス良い育成を目指していることを踏まえたものであること

共通テスト英語の発音・アクセント問題，語句整序問題を廃止することの「決定」経緯（4/4）

本検討会議（第6回，2020年4月23日）渡部良典委員提出資料より

「話すこと（スピーキング）は運動神経と情意要因と認知プロセスを同時並行で行う複雑な作業である。Levelt（1989）のモデルによると、

概念形成 → 概念に合致した意味を持つ単語を探す → 合致した意味を表す単語がなければ最も近い意味をもった単語を探す → 単語の文法的特性に応じて文構造を作り出す（例えば、他動詞ならば、主語＋動詞＋目的語） → 語形変化を整える → 音韻の法則に合わせて発話の準備（playedは/id/、pressedは/t/など） → 運動神経を使って発話、
というプロセスをとっている。」

⇒ 下線部は，語句整序問題に対応？

●「発音・アクセント問題，語句整序問題」は，話す力，書く力の「間接測定」ではなく，話す力，書く力の「土台となる基礎知識」を評価・育成する意義があるのではないか。

● 英語関係者の中でも必ずしも見解は一致していないが，それだけに説得力のあるエビデンスに基づいて方針を決めるべき。

参考 平成31年度「問題作成部会の見解」 (大学入試センター・試験問題評価委員会報告書)

https://www.dnc.ac.jp/center/kako_shiken_jouhou/jisshikekka/hyouka_honshiken/gaikokugo.html

【第1問】(発音・アクセント)

筆記試験で発音やアクセントを問うことの意義は、スピーキング技能につながる基礎的な音声的知識を見ることにある。スピーキングへの土台を築くと同時に、正確な発音及びアクセントの知識はコミュニケーションに重要であるというメッセージを学習者に伝え、語の意味だけでなく発音記号やアクセント記号にも注目し、学校の英語授業で音声指導を促すことを期待するものである。

【第2問】(語句整序等)

A 与えられた英文を完成するのにふさわしい語句を選ばせることにより、語彙、文法及び語法の知識を測定する。

B 文脈を与えた上で、単語の整序を考えさせることにより、意図された意味になるような英文を構成する能力を測定する。

C 対話形式の文脈を与え、それにふさわしい発話文・語句を選ばせることにより、場面に応じた言語使用に関する能力を測定する。

参考 「筆記による発音・アクセント問題の妥当性に関する包括的検証」

(平井明代・横内裕一郎・佐藤文香, 2013, 日本言語テスト学会誌, 16, 167-184.)

<https://ci.nii.ac.jp/naid/110009767208>

「以上の結果から、このテスト問題は、発音・アクセントの知識を測るために作成されているという立場に立てば、妥当性があると言える。そして、センター試験が学習指導要領に準拠した範囲を網羅する試験であるべきとすれば、重要な学習分野である発音面のテスト問題を、パフォーマンステストを用意せずに廃止するのもあまり説得性はない。また、辞書を引く際に発音まで関心を持たせるため、また未知の単語でも綴り字や発音表記から正しく発音できるように促す波及効果の立場からも、このテスト問題の意義はあるかもしれない。」

今後の検討に求められること

スライド2の図の左側に並べた「頓挫の要因」の真逆を行う

- 理念の検証—「理念は正しいが・・・」と無批判に言わない
- エビデンスの活用—大学入試センター研究開発部の
豊富なデータ, 分析結果, 専門性を積極的に活用
- 慎重論の専門家も積極的に活用
- 会議の公開・透明化
- 学会等に提言を求める
- 大学は主体性・専門性を発揮して—これを阻む「圧力」の排除

2025年度入試に間に合わなくなる？ (1/2)

- 2年前ルール等で逆算して、この会議の結論を急ぐことは、2021年度の入試改革を決めて工程表を作り、工程ありきで脆弱な理論的基盤のもと、詰め甘い制度設計をして実施直前の見直しに至ったのと同じ轍を踏むことになる。
- 大学入試で問う「大学で学ぶのに必要な力」が、学習指導要領の変更ですぐに変わるわけではない。また、日本の高校新卒者以外の多様な受験者も対象となることもふまえると、大学入試を、急にハンドルを切るように、学習指導要領の変更と直接連動させる必要はないのではないか。「緩やかな接続」を目指すべきではないか。

2025年度入試に間に合わなくなる？ (2/2)

- いくつかの会議体で何年間も議論してきたこと(そして, うまくいかなかったこと)について, この急ごしらの会議ですべて解決することを要請することはできない。
- この会議で最低限決めなければならないこと, 無理なく決められることと, それ以外のことを峻別して, 時間がかかる内容については時間をかけて検討する土台を作っていたきたい。

「ヒアリング聴取項目」に対する見解 (1/4)

1. 共通項目

● 大学入試が高校教育に与えている影響

⇒ 影響は大きい。それだけに、大学入試が求めているものは「思考力・判断力」、「4技能をバランスよく」などの曖昧な言葉で表現すべきでない。

● 大学入学共通テストと各大学の個別入試との役割分担

⇒ 大学は多様であり、その中の学部等が求めるものも多様であるから、**共通テストにあれもこれも盛り込んで肥大化させるべきではない。**

「ヒアリング聴取項目」に対する見解 (2/4)

2. 個別項目

● 英語によるコミュニケーション能力の育成・評価

① 大学入試で4技能を評価する理念・意義

⇒ 「大学で学ぶのに必要な力」という観点から検討すべき。大学・学部によって、そこで学ぶのに4技能を均等に必要としないところも。

② 共通テストの枠組で評価すべきか否か

⇒ 私は、高校卒業段階での話す力の出来不出来で合否が左右されるより、特に共通テストでは、話す力、書く力の「土台となる力」をしっかりと評価することが大事ではないかと考えている。

⑤ 個別入試への国の支援のあり方

⇒ 「支援」が「介入」「誘導」とならぬよう、大学の主体性を尊重して。

「ヒアリング聴取項目」に対する見解 (3/4)

● 思考力・判断力・表現力の育成・評価

⇒ 「思考力・判断力」は概念規定が曖昧で、指導の目標、学習の目標としてあまり適切でないと考えている。たとえば、「深い理解を伴う知識」を指導・学習の目標とし、思考を重ねてその目標を達成した程度を評価するのが、より適切ではないか。

① 記述式問題を大学入試で出題する理念・意義(どのような記述式問題が推進されるべきか)

⇒ 選択式にも相当の可能性があると思う。選択式では及ばない評価を記述式に求めるのであれば、本格的な記述式とそれに見合う採点体制が必要。

② 共通テストの枠組で評価すべきか否か

⇒ 大規模試験には記述式はなじまないことは、明らかになったのではないか。

⑤ 個別入試への国の支援のあり方

⇒ 「支援」が「介入」「誘導」とならぬよう、大学の主体性を尊重して。

「ヒアリング聴取項目」に対する見解 (4/4)

2. 個別項目

● 諸外国で参考になる事例はあるか

⇒ SATのWriting and Language Test (多肢選択式による「書く力」のテスト)

<https://collegereadiness.collegeboard.org/sat/inside-the-test/writing-language>

When you take the Writing and Language Test, you'll do three things that people do all the time when they write and edit: (文章を書き, 推敲する際に日常的に行う3つのことを行う)

1. Read.
2. Find mistakes and weaknesses.
3. Fix them.

It's the practical skills you use to spot and correct problems—the stuff you've been learning in high school and the stuff you'll need to succeed in college—that the test measures.

参考 大学入試改革関連の論考等(2015年以降, 抜粋)

- 1) 南風原朝和(2015)入試選抜の測定問題(講演録) 独立行政法人大学入試センター入学者選抜研究に関する調査室報告書2『大学入試センターシンポジウム2014 大学入試の日本的風土は変えられるか』, 61-74.
<http://www.dnc.ac.jp/albums/abm.php?f=abm00004972.pdf&n=シンポジウム2014報告書Web.pdf>
- 2) 南風原朝和(2016)企画討論会「入試研究と入試改革」(指定討論) 平成28年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会(第11回)
<https://www.dnc.ac.jp/albums/abm00011189.pdf>
- 3) 南風原朝和(2016)高大接続改革の技術的基盤—テスト理論活用の観点から 日本テスト学会誌, 12, 94-99.
- 4) 南風原朝和(2016)新テストのねらいと予想される帰結 指導と評価, 62(9), 21-23.
- 5) 南風原朝和(2016)大学入試新テスト記述式案—高校国語ゆがめる恐れ 日本経済新聞, 2016年11月28日朝刊
<http://www.nikkei.com/article/DGKKZO09986080W6A121C1CK8000/>
- 6) 南風原朝和(2016)高校の国語教育ゆがむ恐れ—開始時期こだわらず検証を(インタビュー記事), AERA, 2016年12月19日号, 23-24.
<https://dot.asahi.com/aera/2016121400209.html>
- 7) 南風原朝和(2017)共通試験に求められるものと新テスト構想 東北大学高度教養教育・学生支援機構(編)高等教育ライブラリ12 大学入試における共通試験 東北大学出版会 pp.83-99.
- 8) 南風原朝和(2017)大学新テスト方針案公表—記述式・英語委託熟考を 日本経済新聞, 2017年5月22日朝刊
<http://www.nikkei.com/article/DGKKZO16614060Z10C17A5CK8000/>
- 9) 南風原朝和(2017)真価問われる高・大・新テスト改革(インタビュー記事) 産経新聞, 2017年7月19日朝刊
<http://www.sankei.com/life/news/170719/lif1707190002-n1.html>
- 10) 南風原朝和(2017)大学入学共通テストの課題 NHKテレビ「視点・論点」, 2017年9月1日放送
<http://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/400/278834.html>

- 11) 南風原朝和(2017)テスト理論から見た大学入試改革論 サイナビ！ブックレット, Vol.18 ちとせプレス
<http://chitosepress.com/2017/10/27/3216/>
- 12) 南風原朝和(2017)新「大学入学共通テスト」どう見る(インタビュー記事) 朝日新聞, 2017年12月10日朝刊
<https://www.asahi.com/articles/DA3S13267633.html>
- 13) 東京大学高大接続研究開発センター(2018)大学入学者選抜における英語試験のあり方をめぐって(シンポジウム報告書)
<https://www.ct.u-tokyo.ac.jp/images/400081175.pdf>
- 14) 南風原朝和(2018)入試改革で英語民間活用—運用に不安、再検討を 日本経済新聞, 2018年4月16日朝刊
<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO29359260T10C18A4CK8000/>
- 15) 南風原朝和(編)(2018)検証 迷走する英語入試—スピーキング導入と民間委託 岩波ブックレット, No.984
- 16) 南風原朝和(2018)高大接続改革の縫い(講演動画) 東京大学公開講座「縫い」
<https://todai.tv/contents-list/2018FY/2018autumn/05>
- 17) 南風原朝和(2019)英語民間試験の導入—粗い制度設計、「被害」なくせ 日本経済新聞, 2019年1月14日朝刊
<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO39911290R10C19A1CK8000/>
- 18) 南風原朝和(2019)大学入試改革の目玉がはらむ問題 IDE現代の高等教育, 2019年2-3月号, 4-9.
- 19) 南風原朝和(2019)シンポジウム「CEFRと入学試験をめぐって」(指定討論) 国際研究集会2019「CEFRの理念と現実」(京都大学)
<https://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/international-conference/90/video/video18>
- 20) 東京大学高大接続研究開発センター(2019)大学入学者選抜における英語試験のあり方をめぐって(2)(シンポジウム報告書)
<https://www.ct.u-tokyo.ac.jp/images/koudai-sympo2019-report.pdf>
- 21) 南風原朝和(2019)大学入学共通テストへの英語民間試験の導入をめぐって(講演録) 公益財団法人中央教育研究所研究報告, No.94, 8-26.
<http://www.chu-ken.jp/pdf/kanko94.pdf>

- 22) 南風原朝和(2019)見失われた記述式の意義—導入の見直しが必要だ 科学, 89(10), 899-904.
https://www.iwanami.co.jp/kagaku/Kagaku_201910_Haebara-rev.pdf
- 23) 南風原朝和(2019)民間試験の活用, 大学は見直しを(インタビュー記事) 日本経済新聞, 2019年8月30日電子版
<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO49098100Y9A820C1000000/>
- 24) 南風原朝和(2019)共通テストの記述式問題—国・数, 急ぎ見直しを 日本経済新聞, 2019年11月18日朝刊
<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO52216420V11C19A1CK8000/>
- 25) 南風原朝和(2019)英語教育改革の行方(4)(会見動画) 日本記者クラブ
<https://www.jnpc.or.jp/archive/conferences/35549/report>
- 26) 南風原朝和(2019)英語民間試験, 検討のポイントは(インタビュー記事) 朝日新聞, 2019年12月3日朝刊
<https://www.asahi.com/articles/DA3S14279905.html>
- 27) 南風原朝和(2019)【大学最前線 この人に聞く】かくして英語民間試験・国数記述式問題導入は自滅した(上・下)(インタビュー記事) 産経ニュース, 2019年12月19日, 20日
<https://www.sankei.com/life/news/191219/lif1912190008-n1.html>
<https://www.sankei.com/life/news/191220/lif1912200004-n1.html>
- 28) 南風原朝和(2020)来年の「大学入学共通テスト」方針—「バランスの悪い飾り取れた」(インタビュー記事) 東京新聞, 2020年1月30日朝刊
<https://www.tokyo-np.co.jp/article/national/list/202001/CK2020013002000140.html>
- 29) 南風原朝和(2020)大学入試は何を問うべきか—「学力の三要素」を批判的検討 Journalism, 2020年3月号, 26-33.
<https://webronza.asahi.com/journalism/articles/2020031300003.html>
- 30) 南風原朝和(2020)大学入試改革を「私的に」ふり返る 現代思想, 2020年4月号, 39-50.

以上